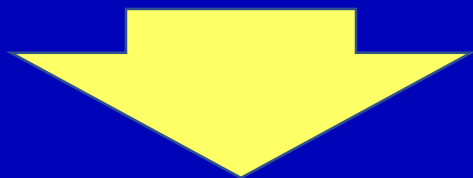


措置対応を繰り返す 患者の現状と支援の課題

○萩原嬉胡 日高真紀 中川優馬 温谷莉早
上原千枝 戸高由佳里 蛸原夕起子*¹ 杉尾重子*²
藤崎淳一郎
中央保健所 障がい福祉課*¹ 高鍋保健所*²

はじめに

過去に措置対応をした患者で、再度
申請・通報の対象となるケースが出現



これらの対象の傾向を明らかにし、
支援の課題と今後の方向性について検討
する。

対象と方法

対象

平成24年4月1日から平成30年3月31日の6年間で、中央保健所において申請通報を受理した対象者のうち、過去に措置診察歴のある27人

方法

精神保健事前調査票、措置入院に関する診断書、経過記録等の集計分析

H29年度報告との比較

対 象

平成24年4月1日から平成29年3月31日の5年間で、中央保健所に対応した措置診察対応者184人

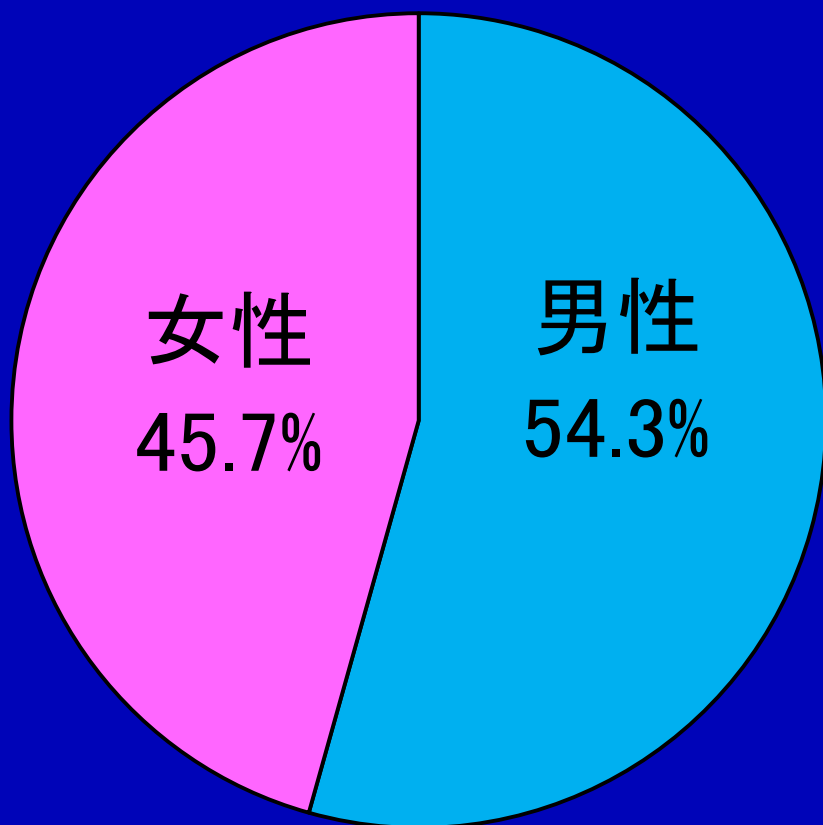
方 法

精神保健事前調査票と措置入院に関する診断書の内容を分析

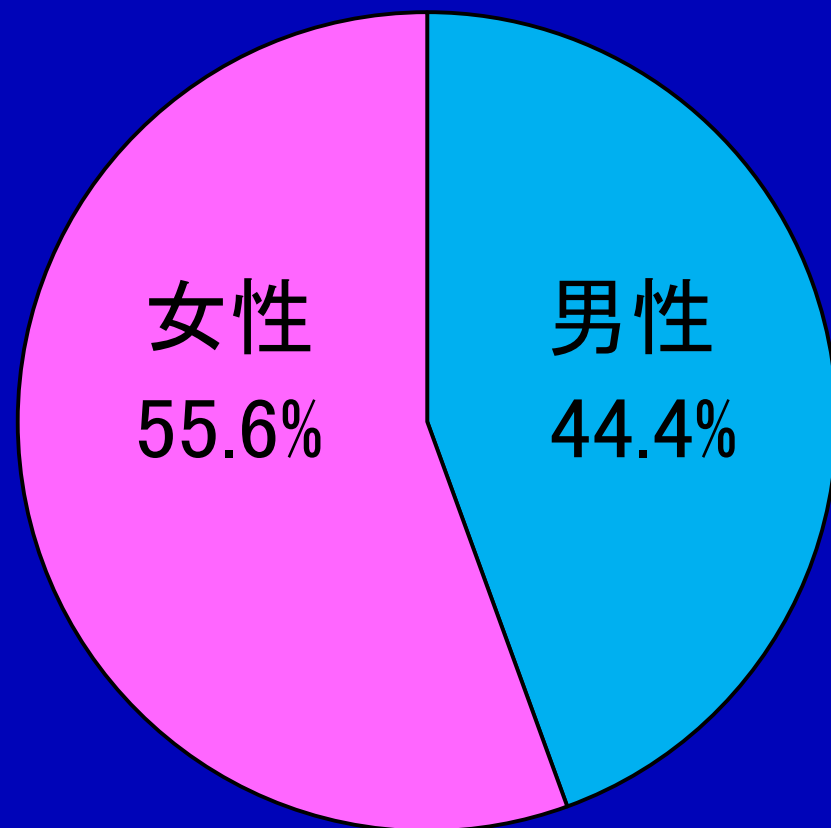
結果

性別

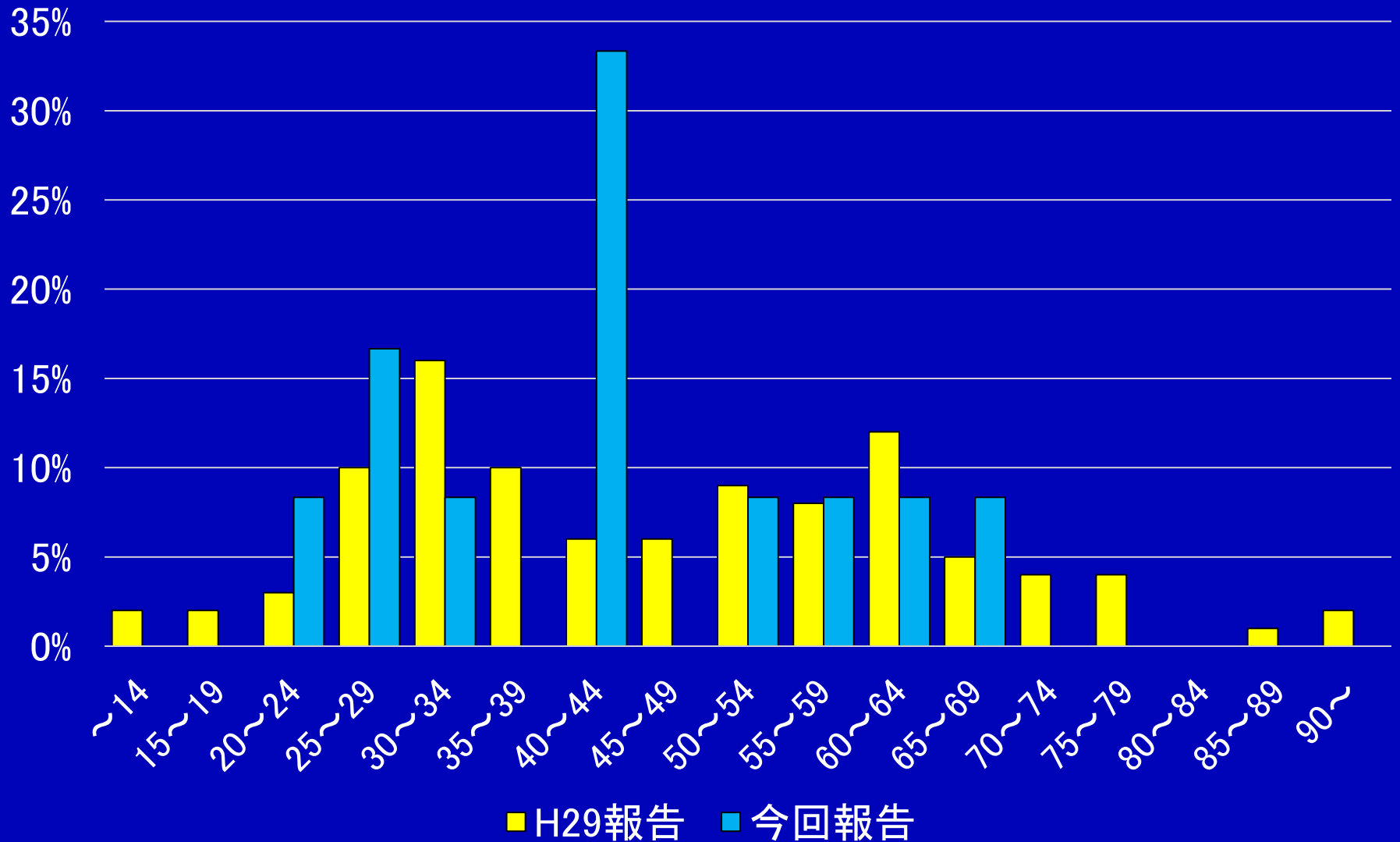
H29年度報告



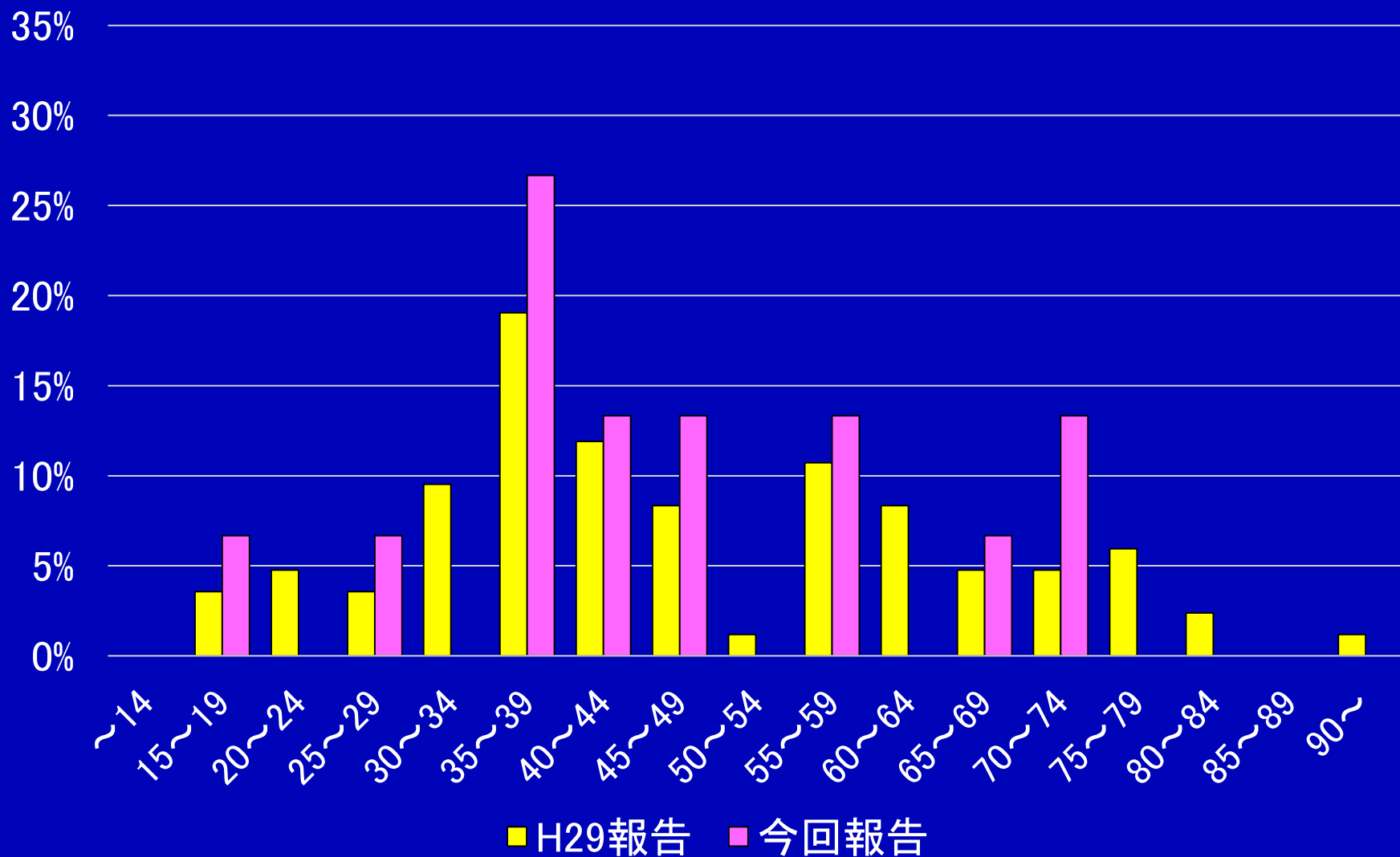
今回報告



年齢分布(男性)



年齢分布(女性)



居住地

(n=27)

県外 7.4%

管轄外市町村

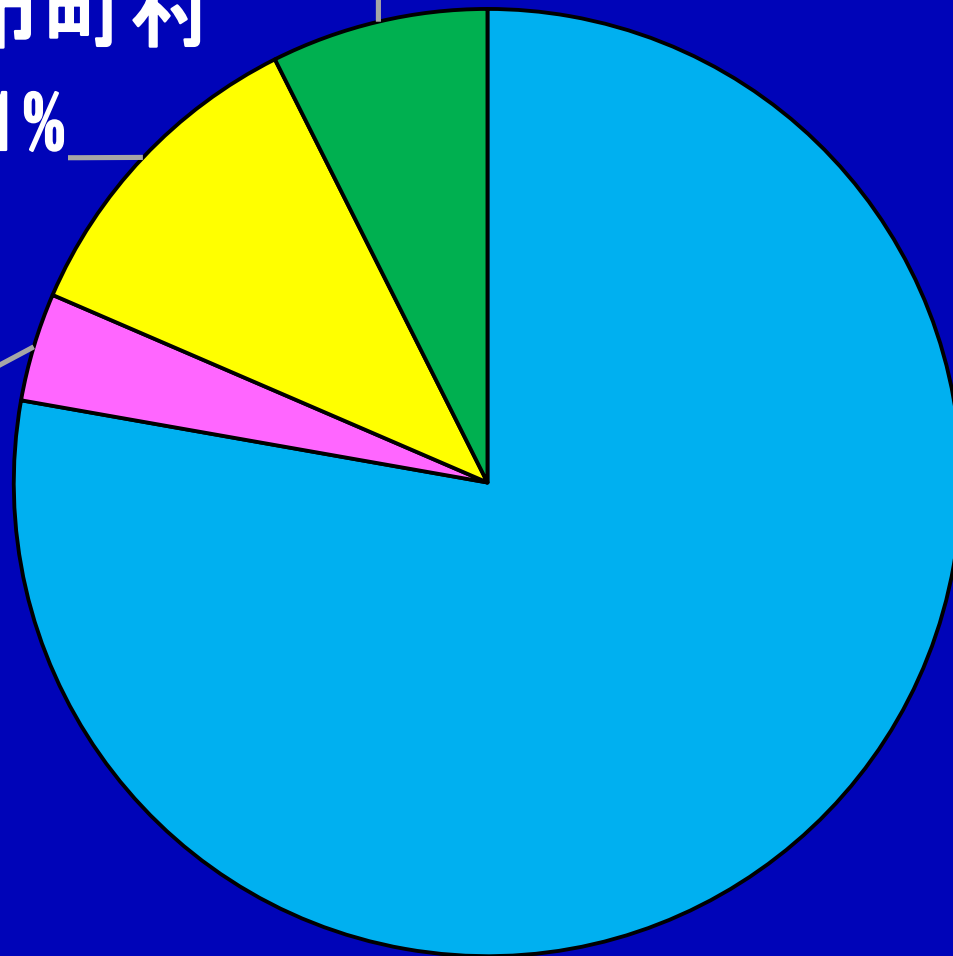
11.1%

東諸県郡

3.7%

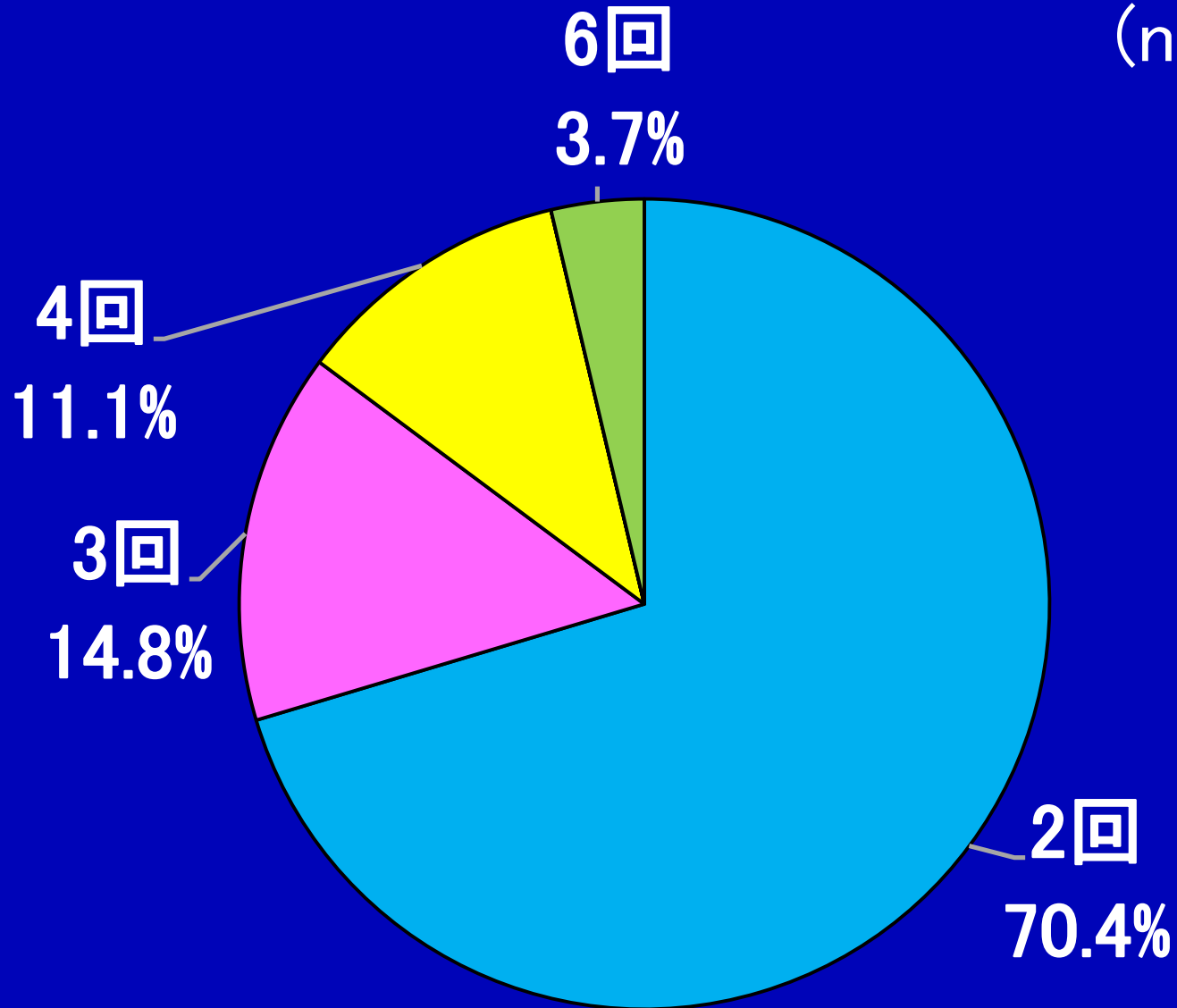
宮崎市

77.8%



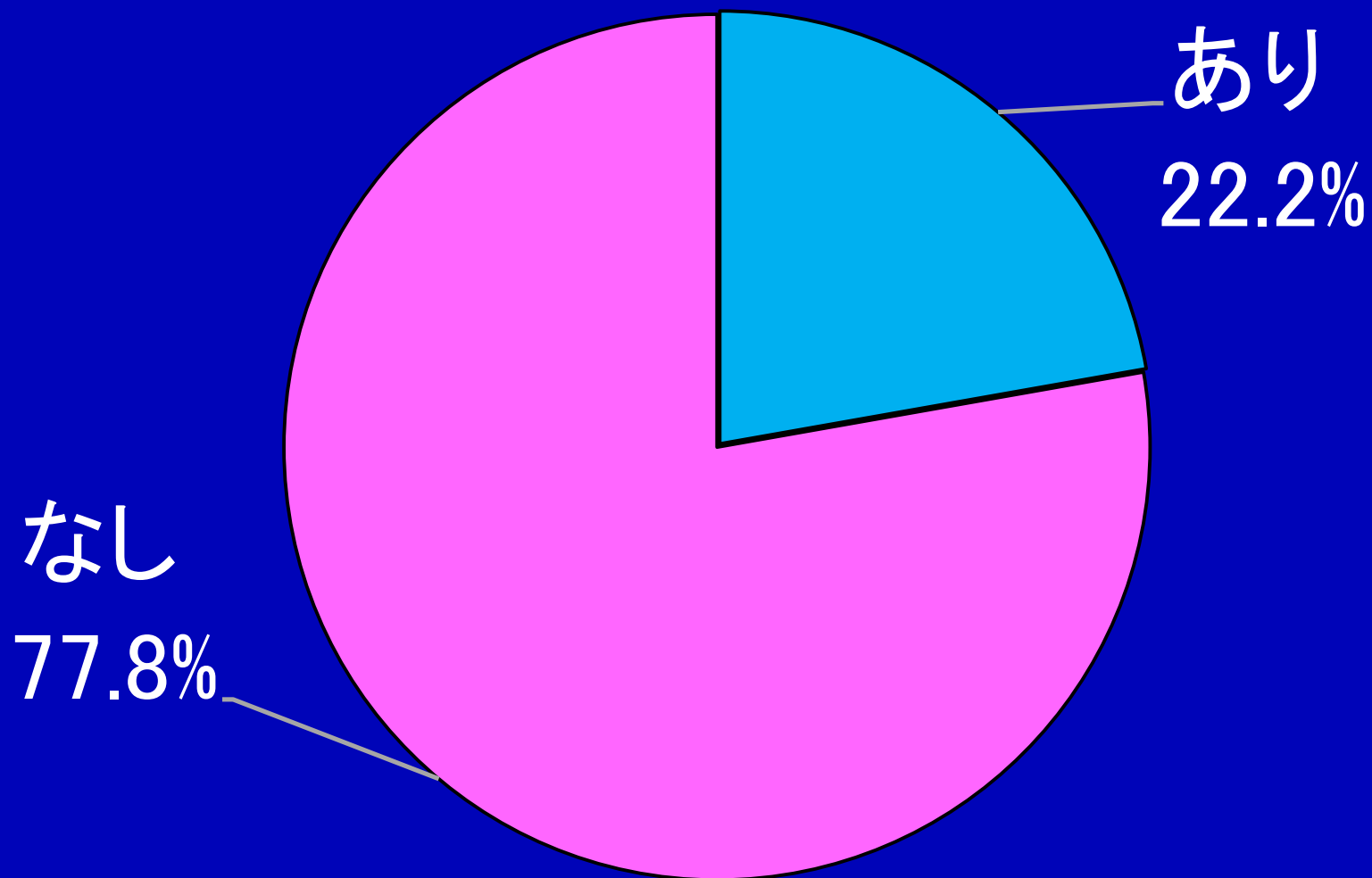
措置診察対応回数

(n=27)

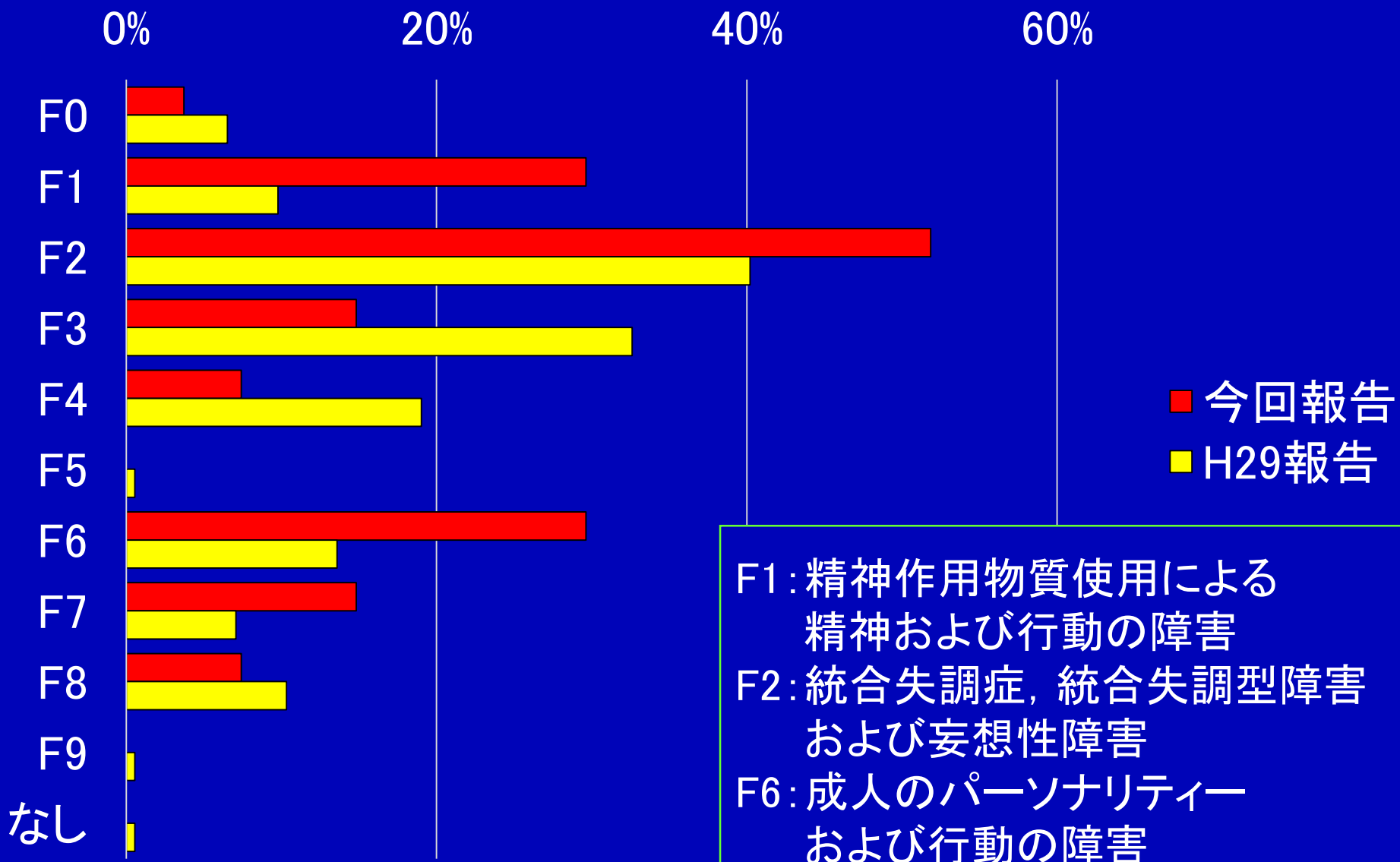


県外での措置対応歴

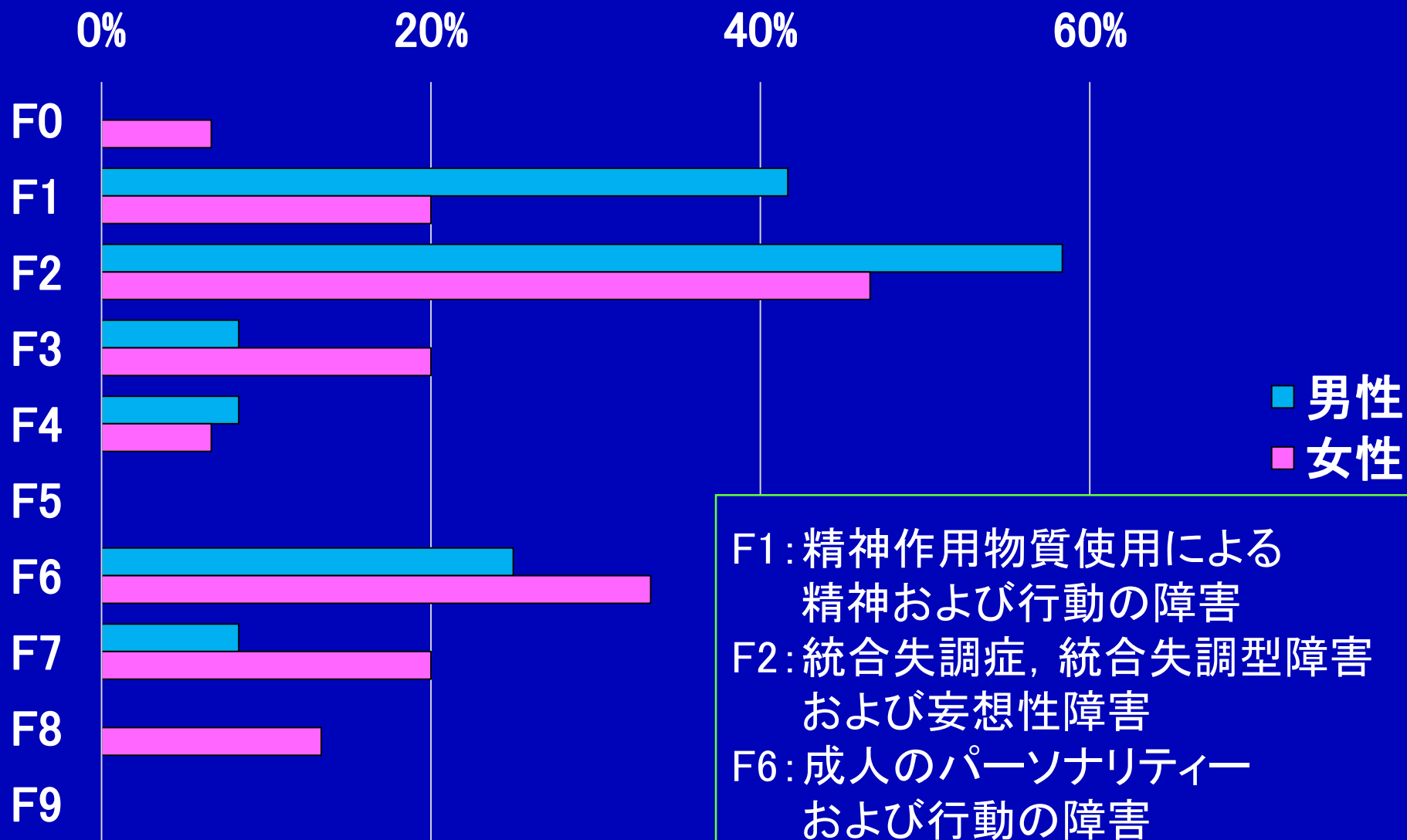
(n=27)



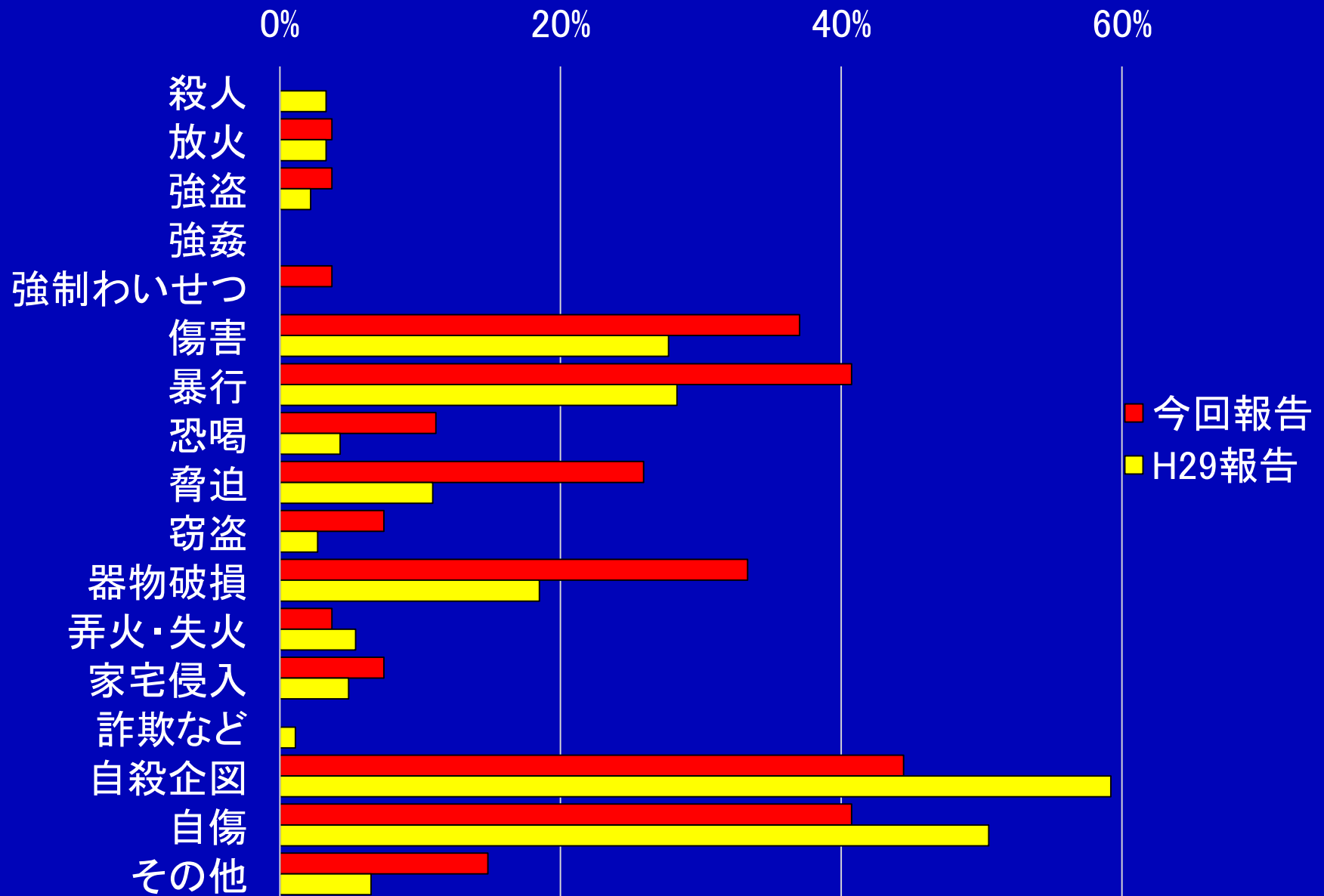
診断結果 (複数診断あり)



診断結果(男女別) (複数診断あり)



重大な問題行動 (複数回答あり)



自傷他害のおそれ

H29年度報告

今回報告

0% 25% 50% 75% 100%

0% 25% 50% 75% 100%

男

男

女

女

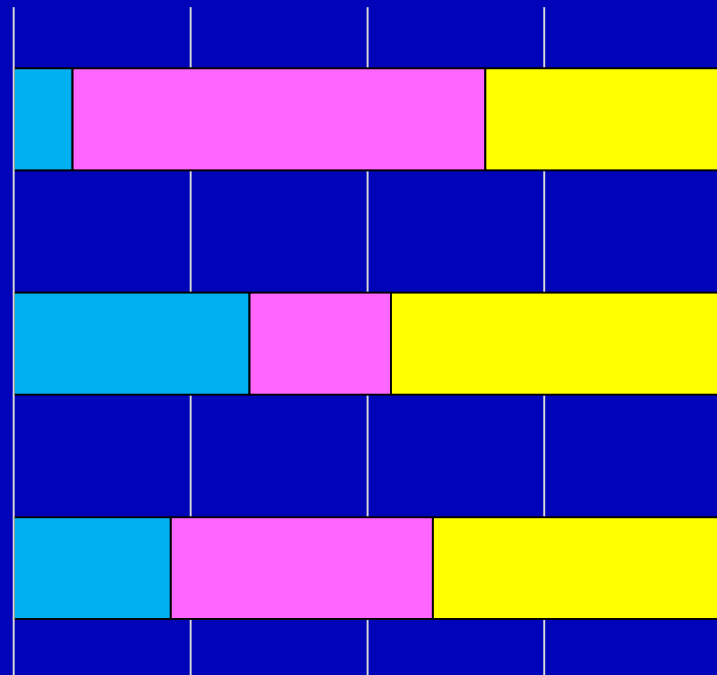
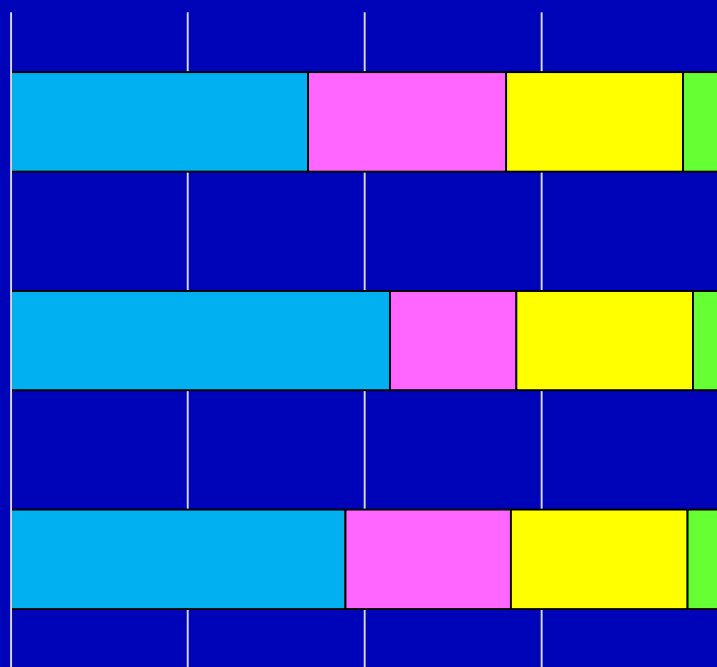
全体

全体

■ 自傷のみ
■ 両方

■ 他害のみ
■ おそれなし

■ 自傷のみ ■ 他害のみ ■ 両方



統合失調症

依存症

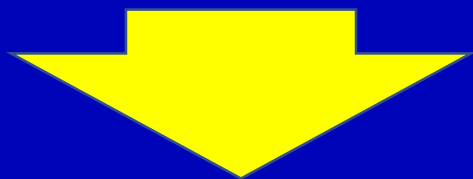
人格障害

発達障害

発達遅滞

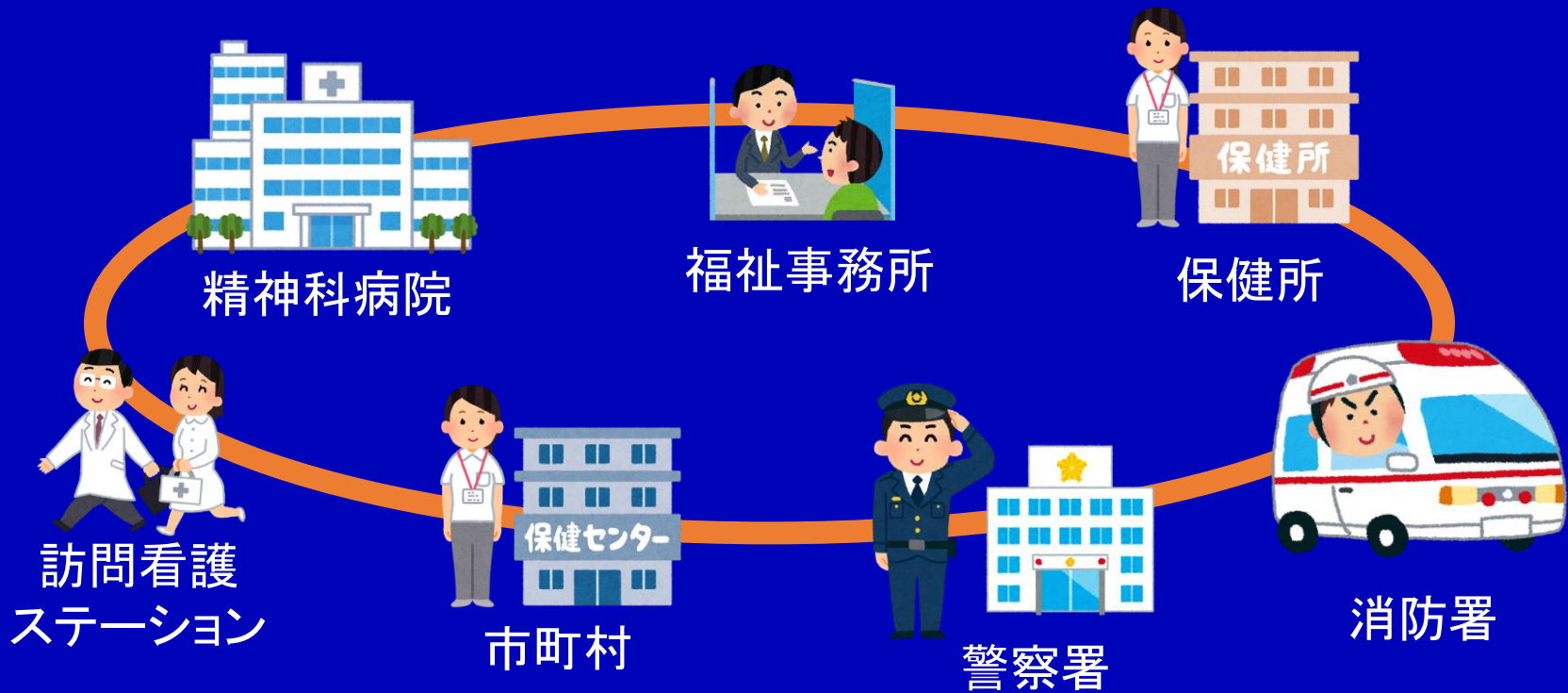
統合失調症モデルでは対応できない様々なメンタルヘルスの課題も重要性を増している

支援の必要性は高いにもかかわらず
うまく支援にアクセスできない傾向がある。

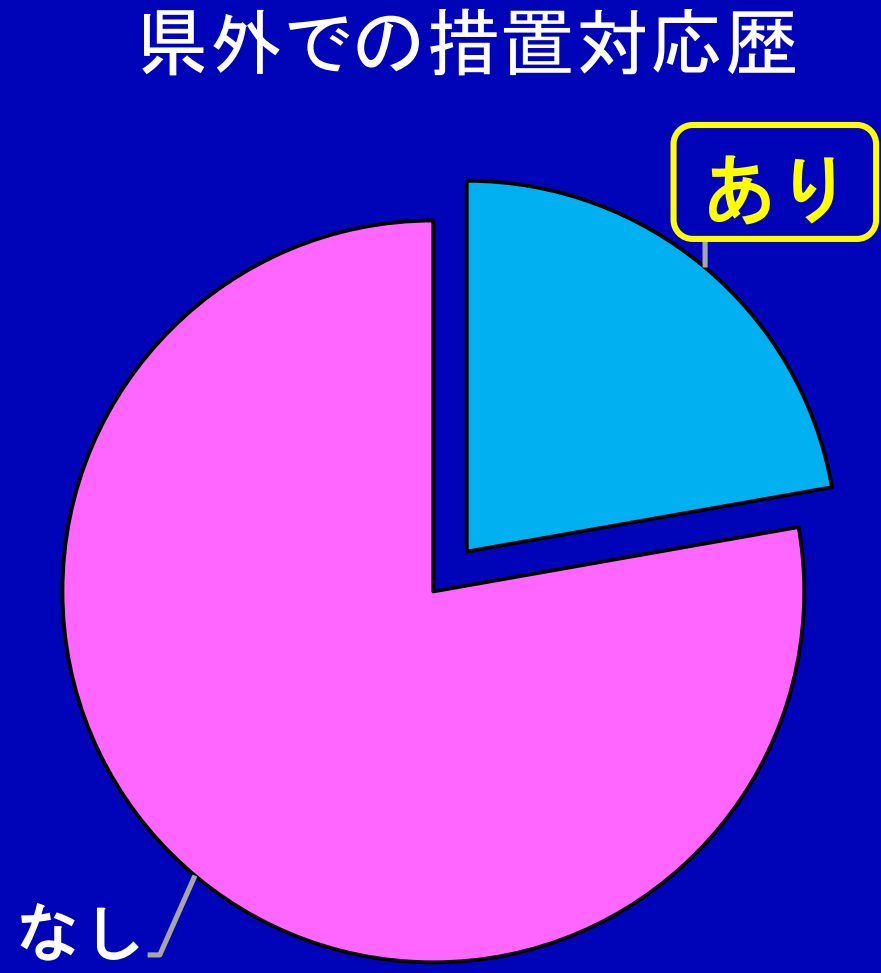
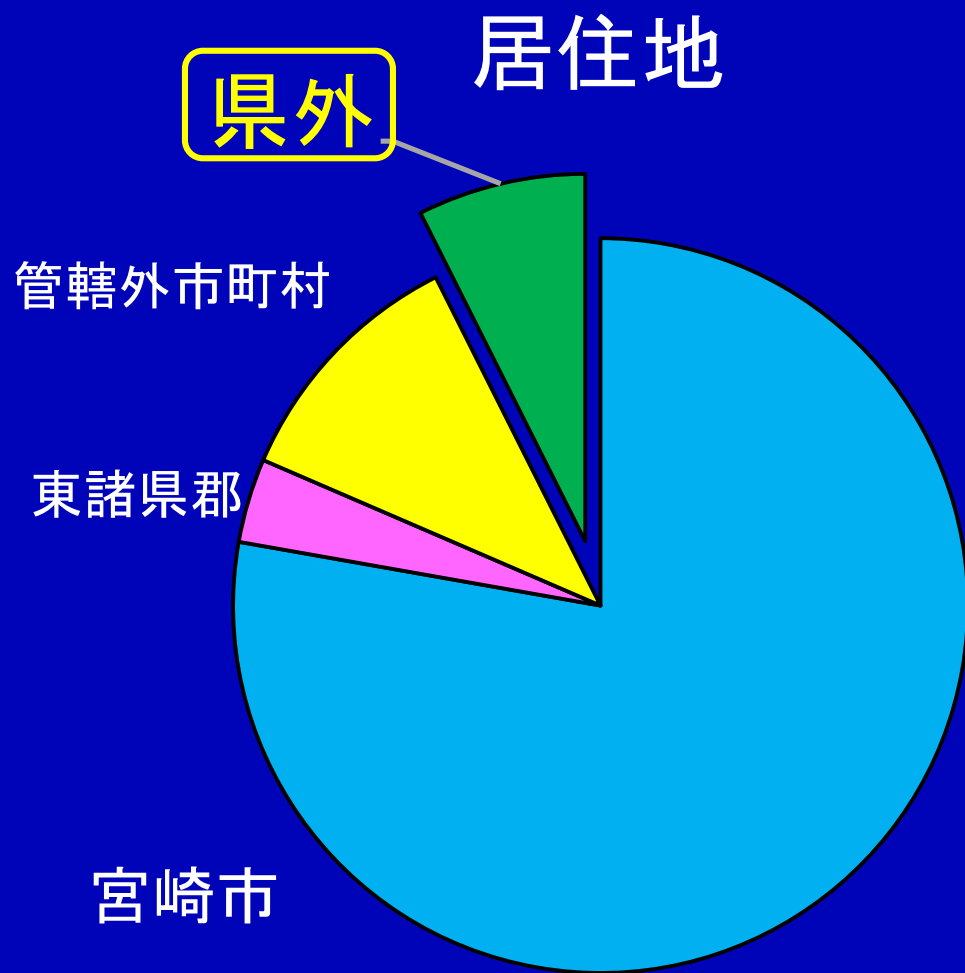


受診のみを前提とした支援体制では不十分



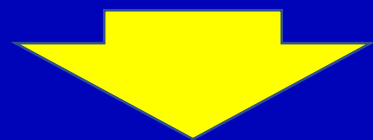


対象者について情報共有し、医療・保健・福祉、
警察等との連携体制をさらに強化することも
今後の課題である。



居住地が県外の者や、過去に県外で措置対応をしている者もいた。

措置入院患者の居住地の変更に伴う情報提供のルールは、個人情報保護の観点から全国的に未整備である。



居住地外で措置対応が発生した時の情報共有のあり方についても今後検討していく必要がある。